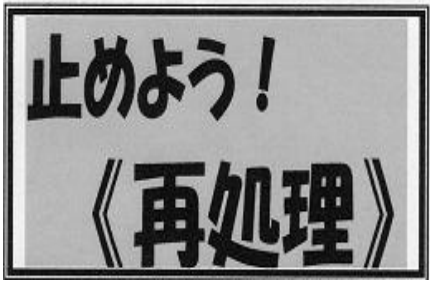
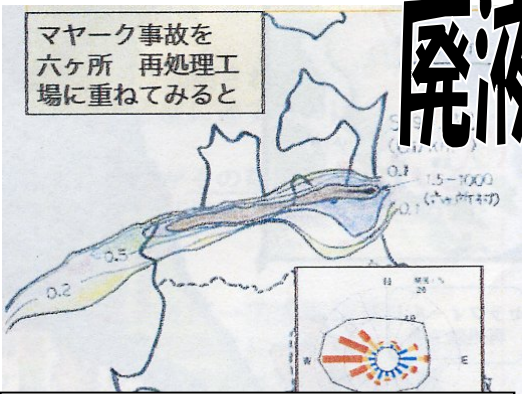


三陸の海を放射能から守る
岩手の会 (略称) **三陸の海・岩手の会**
 郵便振替 02240-5-102650
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>
 《本紙の全バックナンバー掲載》



《天恵の海》
 2018(平成 30)年
 3月19日
 第188号
 編集事務局 S.Oshida
 TEL・FAX 019-623-1636

『ガラス固化』もせず 住民の避難計画は困難 廃液のままでは危ない!



『もし六ヶ所工場で廃液事故があったら… ウラルの核惨事との比較』
 《私達が当日提示した資料》から



担当者に質問する川田龍平参議院議員

再処理関連省庁担当者と市民の
意見交換会開催
 (報告その2)

最悪事故の場合の
 シミュレーション

これだけは聞きたい
質問3
 西ドイツやノルウェーの政府のように再処理工場の重大事故シミュレーションを行うべきだ。

回答(要旨)

原子力規制庁長官官房放射線防護グループ担当者

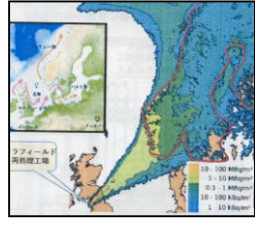
原子力災害対策審議会で「六ヶ所再処理工場の災害対策上のハザード評価」を行った。そこでは、災害の進展や放射性物質の放出防止措置について、それらの処置が失敗した場合についても検討。「災害評価指針改正」としてまとめ、ホームページにも公表した。

市民から再質問・意見
市民(岩手)

私達の質問は、最悪の事故が起きた場合のシミュレーションをしたのかと聞いて入る。西ドイツやノルウェー政府のような苛酷事故の

シミュレーションなのか。規制庁長官官房担当者 防災の対策としての範囲を特定した上でのシミュレーションである。
市民(岩手)
 要するに苛酷重大事故のシミュレーションではないし、今のところやる予定もないと言うことか。

《私達が提示した資料》
 『ノルウェー政府シミュレーション』



(説明) ノルウェー政府は二〇〇八年一〇月、偏西風が卓越する時期の観測に基づき、イギリスセラフィールド再処理工場から高レベル放射性廃液千立方メートルの全セシウム137のうち一〇%が環境に放出された場合のシミュレーションをおこなった。結果はノルウェーの国土の大半が人の住めない土地になることが明らかになった。
 『西ドイツ政府シミュレーション』一九七七年一月一五日の毎日新聞。



爆発事故に至るまでの
予測時間

これだけは聞きたい
質問4
 廃液の水素爆発、沸騰、蒸発乾固までの到達予測時間はいくらか。重大事故対応マニュアルはあるのか。

回答要旨

規制庁担当者
 原燃からはいろいろな説明の資料が出ているが、その機器周辺の情報が分からず 審査中であり何とも言えない。時間については規制庁としては確認していない。

東海についても事業者の考え方があつたらう。

市民からの再質問・意見 市民（岩手）

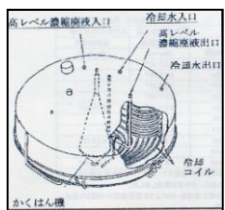
防災上最も大切な水素爆発、沸騰、硝酸塩爆発に至る時間はまたもうやむやな回答。防災上最も知らねばならない危機に達する時間（保守的時間）を知りたい。これでは心配で堪らない。市民（茨城）

これで本当に良いのか。ほんとに心配。液体状ではなくして欲しい。規制庁担当者

「非常時対応マニユアル」については確認しているところだ。答えられない。

《私達が提示した資料》

『高レベル放射性廃液タンクの図』



冷却と掃気
電源を失うと
と掃気が止まる

（説明）廃液は崩壊熱を発生し、強い放射能は水などから水素を発生させる。原燃の一昨年七月の回答書では「電源を失ってから沸騰開始までは約二四

時間。水素爆発到達濃度（四％）に至る時間は約三五時間」と書かれていました。ところが同年六月一五日公表の原子力規制委員会新規制基準審査会合資料には「沸騰到達時間約一五時間、水素濃度八％への到達時間約七時間」と記されていました。

テロやミサイル攻撃と高レベル廃液

これだけは聞きたい

質問5

再処理工場が、テロリストの攻撃やミサイル攻撃を受けた場合、廃液が危険な状態にならないか。「電磁パルス攻撃」についてもどう考えるのか。

回答要旨

原子力規制庁規制部担当者

ミサイル攻撃への対策はこれは原子力規制による対応ではなく、国全体として対応する問題と考える。

防衛省 担当者

我が国のミサイル防衛システムはイージス艦などのミサイルによる多重防衛により国民の生命財産を守る体制

をとっている。また多元防護のため全国各地にパックスリーを機動的に展開している。航空自衛隊青森県駐屯地には部隊がいて対応する。

原子力規制庁 規制部担当者

EMP（電磁パルス）

攻撃は、これも一種の軍事活動であり規制委員会としては対処しえない。原発暴走や廃液沸騰についてもこれから研究する。

防衛省担当者

EMPについては防衛省として研究はしているがその影響などについては十分な知見が上ってきているわけではない。

《私達が提示した資料》

『電磁パルス(EMP)攻撃』

（説明）六ヶ所再処理工場は、一昨年の夏に落雷事故に見舞われ、工場各部が雷撃され一部の制御機器が損傷した。一九六二年にアメリカとソ連は、超高空での核実験を行ったが、核爆発によるガンマ線は、成層圏の大気に電離現象をもたらし各地に落雷現象を多発させることがわかった。このよ

うな人工的落雷による軍事行動をEMP（電磁パルス）攻撃という。再処理工場はこの点からも危険な存在である。

様々な災害と隣り合わせの再処理工場

これだけは聞きたい

質問6

再処理工場に廃液が溜まっていることで、自然災害によって危機に陥ることが心配である。災害の種類によってどのような防護・防災を考えているのか？

回答(要旨)

◇火山噴火 火砕流

原子力規制庁地震津波部門審査担当者

火山活動により六ヶ所工場に火砕流が到達するか、影響を与えるのか審査中である。

◇大津波

原子力規制庁地震津波部門担当者

東海再処理工場に津波が襲ったならどうなるのか等、現在審査中。

◇化学薬品

原子力規制庁地震津波部門担当者

世界の再処理の歴史では多重事故もあつたが今答えるべきことは特にない。

◇石油備蓄基地

原子力規制庁地震津波部門担当者

六ヶ所工場に隣接したくさんの石油タンクがあるが火災が起きた時にどうなるのか、送電線など審査中である。

市民からの再質問意見
市民（北海道）

外部飛来物には様々のものが考えられる。再処理工場の飛来物への耐久性はどうか。

原子力規制庁担当者

再処理工場が落下物への程度の耐久強度があるかは公開できない。

内閣官房(緊急対策室)

事態が発生したら関係省庁と連絡取り対処する。

市民（東京）

六ヶ所再処理工場の上を飛行機が飛んでいると地元住民が語っている。どこに苦情を申し入れれば良いのか。内閣府で良いのか。

川田参議院議員

ミサイルやテロよりも米軍基地が心配である。一〇日の三沢基地の事故は今回の質問には

間に合わなかったが、大きな問題である。火山噴火でも想定外のこと起っている。三年間も審査を待っているわけには行かない。

市民（岩手）

『住民避難計画』が緊急時でたった「5分圏内」である。廃液は数百キロも飛び散る。廃液状ではなく「既にガラス固化している」との前提で計画が企画されているのか？

ストロンチウム90のデータが公表されていない。出してほしい。

総理大臣への特別要望

特別危険な「高レベル放射性廃液」をかかえ、万が一戦争になれば国家滅亡につながる危険があります。戦争は絶対に避けてほしい。

外務省軍縮・核不拡散科学部担当者

我が国は平和憲法のもと、戦後一貫して平和国家をめざし他国へ戦争の脅威を与えない政策をとっている。